

NPO 法人 子どもの心理療法支援会

2017-18

精神分析的な心理療法 研修プログラム 募集要項

はじめに

NPO 法人「子どもの心理療法支援会」は、発足 12 年目を迎え、京都・大阪を中心に心理療法支援や研修の提供を行ってきました。これまでも研修プログラムは関西圏外も含めて、多くの先生方にご参加いただいていた。時間や費用にも関わらず、心理療法を実践する力の向上を求める先生方の熱意にサポチルはこれまで支えられてきたのだと深く感謝しております。昨年度からサポチル関東を発足し、関東でも臨床セミナーや研修プログラムを受講していただけるよう調整を行っています。今後は全国的に専門的な研修が受けられるよう目指し、精神分析的な心理療法の普及に尽力していきたいと思っております。

この研修プログラムは精神分析的な心理療法に関する高い専門性を有した心理療法士を育成していく活動の一環として開講してきました。1 年を通して少人数の限定されたメンバーシップで集中的に学ぶという特色は、他の多くの講義形式の研修にはなく、皆様から高く評価していただいています。その理念は、「アトリエシステム」という言葉で表され、皆様が自立性・自主性・専門性を持ち、目指す成長を達成するために学ぼうとする「場＝アトリエ」をこちらが提供するというものです。

また、2011 年から研修の目安・目標を設定した「子どもの精神分析的な心理療法士」資格の認定制度を整備しており、9 名の先生が資格を取得されています。さらに一昨年度には「子どもの精神分析的な心理療法スーパーバイザー」の資格も設定し、訓練を提供する指導者層の育成にも力を入れ始めています。心理療法文化の持続可能な発展を目指していく上では、訓練を受けてきた者が、次に訓練を提供する側となり、さらに新たな人を受け入れられる体制を整えていくことが不可欠です。そのため、皆様それぞれが必要な学びを得られるよう研修プログラムも多様性を有するようになっていきます。

・今年度の主なプログラム内容の変更点

今年度は文献講読がタームの途中であり、継続した内容で運営していきます。文献講読 I は講師の先生の都合により、京都は仙道先生から平井先生に変更して内容はビオンとなります。大阪は飛谷先生から変更はなく、クラインの内容となります。昨年度から始まったグループグループに対する理解と介入を目指す研修として、鈴木誠先生によるワーク・ディスカッションセミナーと仙道由香先生による体験グループも継続します。他機関との関連では、新たに津田真知子先生による森ノ宮の研修が精神分析学会の認定グループとして承認され、精神分析入門セミナーが系統講義、森ノ宮事例検討会が症例検討会として認められました。これまで同様に子どもの精神分析的な心理療法 BASIC は臨床心理士更新ポイントを取得できます。

皆様の積極的な参加を心よりお待ちしております。

NPO 法人 子どもの心理療法支援会理事長 平井正三

1. 研修プログラム一覧

本研修プログラムは、「基幹セミナー」、「応用セミナー」によって構成されています。今年度の研修プログラムは以下の通りです。詳しい内容については、「4. コース紹介」をご覧ください。

☆下記日時は、基本的な日時であり、講師の先生の都合で変動することがあります。ご了承ください☆

コース名		講師	会場	定員	日時	
基幹セミナー	乳児観察セミナー	平井正三	御池	5名	毎週月曜日 19:30~21:00	
		鵜飼奈津子	梅田	5名	毎週土曜日 10:30~12:00	
	子どもの精神分析的心理療法 BASIC ^{※1}	鵜飼奈津子	梅田	10名	第1・3土曜日 13:00~14:30	
	精神分析入門セミナー（小人数の講義形式） ^{※2}	津田真知子他	森ノ宮	10名	第1土曜日 15:40~18:10	
	ワーク・ディスカッションセミナー	鈴木誠	御池	8名	第3土曜日 18:30~21:00	
	文献講読	文献講読Ⅰ	クライン ^{※2}	飛谷渉	なんば	12名
文献講読Ⅱ		ピオン	平井正三	御池	12名	第1土曜日 18:30~21:00
文献講読Ⅲ 「こころの発達心理学」		北川恵 ^{※3} ／別府哲	御池	12名	第2土曜日 16:30~18:30	
応用セミナー	G S V	Small Group SupervisionⅠ ^{※2}	飛谷渉	なんば	5名	第2・4火曜日 20:00~21:30
		Small Group SupervisionⅡ ^{※2}	平井正三	御池	5名	第2・4木曜日 18:20~19:50
		Small Group SupervisionⅢ	仙道由香	新大阪	5名	第2・4火曜日, 8:30~10:00
	森ノ宮事例検討会 ^{※2}	津田真知子他	森ノ宮	10名	第1土曜日 18:40~20:40	
	体験グループ	仙道由香	新大阪	8名	毎週水曜日 20:00~21:00	
	ワーク シヨ ップ ・ 勉 強 会	子どもの心理療法ワークショップ	平井正三	御池	15名	第2土曜日 19:00~21:30
		精神分析臨床研究会	平井正三	御池	15名	第4木曜日 14:00~16:30
		思春期青年期の 精神分析的心理療法セミナー	飛谷渉	なんば	15名	第2土曜日 18:30~21:00
心理療法のアセスメント		仙道由香	新大阪	10名	第4土曜日 18:30~21:00	
子どもの心理療法 One More Step		松本拓真	京橋	10名	第1土曜日 18:30~21:00	
京都精神分析研究会	平井正三	四条烏丸	—	第3土曜日 19:00~22:00		

「臨床心理士」資格取得者のための定例型研修会に認定され、更新ポイントが取得できます。

※2：日本精神分析学会認定精神療法医・日本精神分析学会認定心理療法士認定研修の単位が取得できるセミナーです。

※3：2名の先生が5回ずつ担当します。

2. 講師紹介（敬称略，50音順）

鵜飼 奈津子	1997～2004年タビストック・クリニック児童・家族部門留学。Child & Adolescent Psychotherapist 取得。ロンドン医療センターおよびRefugee Therapy Centre, Child & Adolescent Psychotherapist を経て、現在、大阪経済大学人間科学部教授。
北川 恵	1999年京都大学教育学研究科博士課程研究指導認定退学。2002年教育学博士（京都大学）。Adult Attachment Interview コーダー資格。The Circle of Security program (COS) 実施資格、「安心感の輪」子育てプログラム (COS-P) 研修講師資格。現在、甲南大学文学部人間科学科教授。
鈴木 誠	1988年名古屋大学医学部精神医学教室 卒業研修修了。現職、くわな心理相談室 主宰。日本精神分析学会認定スーパーバイザー・認定心理療法士
仙道 由香	臨床心理士。2008～2014年タビストック・クリニック成人部門留学。タビストック認定成人心理療法士 (TQAP) 資格取得。英国精神分析協議会 (BPC) 登録精神分析的な心理療法士。現在、新大阪心理療法オフィス代表のほか、大阪経済大学大学院兼任講師も務める。 http://yukasendo.com/
津田 真知子	奈良女子大学修士課程修了。関西心理センター・谷町子どもセンター所長を経て現在、大阪心理臨床研究所代表。NPO 法人子どもの心理療法支援会副理事長。国際精神分析協会 (IPA) 認定精神分析家（日本精神分析協会準会員）。日本精神分析学会認定スーパーバイザー。
飛谷 渉	1991年大阪市立大学医学部卒、2004～2008年タビストック・クリニック思春期青年期部門留学。現在、大阪教育大学保健センター准教授。精神科医、日本精神分析学会認定スーパーバイザー。
平井 正三	京都大学教育学研究科博士課程を経て、タビストック・クリニック児童・家族部門留学。Child & Adolescent Psychotherapist 訓練コースを修了し、資格取得。現在、御池心理療法センター代表および NPO 法人子どもの心理療法支援会理事長。大阪経済大学客員教授。
別府 哲	京都大学大学院教育学研究科を経て、1999年教育学博士（京都大学）。現在、岐阜大学教育学部教授。主要著書に『自閉症幼児の他者理解』（ナカニシヤ出版）、『自尊心を大切にしたい高機能自閉症の理解と支援』（共編著有斐閣）などがある。
松本 拓真	2013年大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程研究指導認定退学。2015年人間科学博士（大阪大学）。現在、NPO 法人子どもの心理療法支援会理事。2014年に「子どもの精神分析的な心理療法士」を取得。

3. 会場

それぞれの会場の詳細は受講が決定した際にお知らせします。

表記	会場の名称	最寄駅
御池	御池心理療法センター	阪急烏丸駅下車 15 分, 地下鉄烏丸御池駅下車 2 分
梅田	(詳細は受講決定後にお知らせします)	JR・阪急・阪神梅田駅下車 10 分 地下鉄中崎町駅下車すぐ
なんば	精神分析的な心理療法・プラクティスなんば	地下鉄大国町駅下車 5 分
京橋	大阪心理臨床研究所・京橋心理相談室	JR・京阪・地下鉄京橋駅下車 5 分
森ノ宮	森ノ宮心理相談室	JR・地下鉄森ノ宮駅下車 5 分
新大阪	新大阪心理療法オフィス	JR・地下鉄新大阪駅下車 7 分
四条烏丸	佛教大学四条センター会議室	阪急烏丸駅下車すぐ

4. コース紹介

4-1: 基幹セミナー

4-1-1: 乳児観察

精神分析的な心理療法を実践するにあたって、基本的な治療者の態度について学ぶことができます。心理療法の事例を持たない方の参加も歓迎しています。本セミナーは、年間を通して随時参加できます。

乳児観察セミナー	平井正三先生／御池	毎週月曜日／19:30～21:00
	鵜飼奈津子先生／梅田	毎週土曜日／10:30～12:00

—講師（平井先生）からの内容紹介—
本セミナーでは、タビストック方式乳児観察を実際に経験することで、乳児の心の世界や母子関係の実際に触れる一方、精神分析的観察のスタンスを身につけていくことを目指していきます。参加者は、2年間毎週1時間観察のために、そしてさらにそれ以上の時間を記録のために費やすことのできるコミットメントを必要とされます。乳児観察の経験は子どもの精神分析的な心理療法の研修の基礎であると、本 NPO は考えています。本セミナーに参加を希望される方に対しては、事前に始め方などをご相談いただく機会を設けますので、NPO の事務局もしくは講師にご連絡ください。

4-1-2: 精神分析的な心理療法実践の基本を学ぶ

・子どもの精神分析的な心理療法 BASIC

子どもの精神分析的な心理療法に興味がある、実践してみたいと感じている方を対象にします。心理療法の事例を持っていない場合でも、家庭教師やボランティアなど子どもと関わる仕事をしている場合には、そこでの事例を検討することを通して、精神分析的な心理療法の見方を学んでいきます。このセミナーは日本臨床心理士資格認定協会の定例型研修会として認定され、更新ポイントを取得できます。

子どもの精神分析的な心理療法 BASIC	鵜飼奈津子先生／梅田	第1-3土曜日／13:00～14:30
----------------------	------------	---------------------

—講師からの内容紹介—
子どもの精神分析的な心理療法を実践していこうとする際に問題となることは、その背景となる基本的理論をしっかりと学ぶことはもちろんですが、それをいかに具体的にかつ実践的な場面に応用していくかということでしょう。このセミナーは、そうした基本的理論を学びながら、豊富な実践例を紹介していくなかで、参加者の皆様の日々の臨床について考えていただく機会にしたいと思っています。随時、皆様から提供していただく事例検討の機会も設けたいと考えています。
※このセミナーは5月から開講です。定員に空きがあれば4月上旬の申し込みも受け付けることができます※

・精神分析入門セミナー

精神分析の歴史・基礎概念・技法などを系統的かつ包括的に学ぶことを目的としたセミナーです。少人数を対象とした講義形式で、かつ毎回講師が代わりオムニバス形式で豊かな視点を身に着けられるよう企画されていることが特徴です。「日本精神分析学会認定精神療法医・日本精神分析学会認定心理療法士」認定研修グループの認定審査を受け、「系統講義」として認定されました。

精神分析入門セミナー	津田真知子先生 他／森ノ宮	第1土曜日 15:40～18:10
<p>—講師からの内容紹介—</p> <p>基礎から精神分析を学びたい方のためのセミナーですが、中堅の方にも再度ご自分の学びを振り返る機会にしていただけるように系統的にプログラムは組まれています。</p> <p>今期で4年目になります。初年度は「精神分析の始まりと展開」、次年度は「対象関係論の展開」、昨年は、「症状と病態の精神分析的な理解」のテーマで行いました。今年度は、「精神分析的治療技法」のテーマで、精神分析的な心理療法の立ち上げから心理療法プロセスの重要な局面について、また精神分析的な心理療法の応用分野についても技法に焦点を当てて学びます。</p> <p>講義は、主に精神分析学会の認定精神療法医・認定心理療法士、及び認定スーパーバイザーが担当します。本年度も講師のほかにゲスト講師に参加いただき、テーマの理解が深まるよう工夫されています。精神分析的臨床の力をつけるためには、絶えず実践と理論を行きつ戻りつ並行して学び、深く考える態度を身につけることが必要です。本セミナーは、2人の講師を中心に小人数グループの許容的な雰囲気の中で自由に発言ができるのが特徴です。</p> <p>日本精神分析学会の認定グループの系統講義として認定されましたので、認定を取得希望の方にも適しています。</p> <p>※4年を1クールとしており、今年度は4年目ですが、1年ごとの受講も可能ですので、新たな受講者も歓迎いたします。</p>		

4-1-3 : ワーク・ディスカッションセミナー

ワーク・ディスカッションセミナー	鈴木誠先生／御池	第3土曜日 18:30～21:00
<p>—講師からの内容紹介—</p> <p>2014年6月の臨床セミナー「精神分析を応用する実践の最前線 Work Discussion Method」の発展コースです。「ワーク・ディスカッション-心理療法の届かぬ過酷な現場で生き残る方法とその実践」(編: マーガレット・ラスティン他) 岩崎学術出版社を読みながら、ワーク・ディスカッションを体験します。通常では心理療法が届かない人々や世界へ貢献しているチャレンジを修得していきます。</p>		

4-1-4 : 文献講読

精神分析および発達に関する基本的な文献を読み、学んでいきます。文献講読Ⅰは2つのセミナーが開講されており、内容が異なりますのでご注意ください。飛谷先生によるなんば開講は1ターム3年の2年目、平井先生による御池開講は1ターム3年の3年目となります。文献講読Ⅱは都合により今年度は休講となり、そこで扱われていた内容は、次年度に飛谷先生の文献講読Ⅰが「現代クライン派」の内容となることでカバーされる予定です。尚、飛谷先生の「文献講読Ⅰ」「文献講読Ⅱ」は、「日本精神分析学会認定精神療法医・日本精神分析学会認定心理療法士」認定研修グループの認定審査を受け、「系統講義」として認定されています。

文献講読Ⅰ 「精神分析のエッセンスを学ぶ」	クライン／飛谷渉先生／なんば	第4土曜日／18:30～21:00
	ビオン／平井正三先生／御池	第1土曜日／18:30～21:00
<p>—講師（飛谷先生）からの内容紹介—</p> <p>精神分析の歴史を踏まえた理論的、技法的発展について、フロイトからクライン、クラインからビオンというクライン派の系譜を軸に、3年間かけて系統的に学んでゆく文献講読コースです。今年度は3クール目の2年目にあたり、いくつかの解説書を頼りにメラニー・クラインの原典に当たります。クラインの主要論文を読み、彼女の重要なアイデアがどのような臨床経験を元に形をなしていったのか、また彼女の概念が現代クライン派精神分析の臨床概念へとどのように発展したのかについて理解するとともに、対象関係論的発達論の基礎を学びます。サブリーディングとして、「新釈メラニー・クライン（岩崎学術出版）」を使用し、文献学的な視座と伝記的な観点からクラインの重要理論に接近できるよう構成されています。今年度も、多くは日本語版を中心にして講読の負担を軽減するとともに、セミナー現場におけるディスカッションをより活発にすることを目指します。</p> <p>使用文献：「メラニー・クライン著作集（誠信書房）」、「新釈メラニー・クライン（岩崎学術出版社）」</p> <p>—講師（平井先生）からの内容紹介—</p> <p>本セミナーでは、ビオンの主要な著作を年代順に抄読していきます。『集団の経験』『再考』『精神分析の方法ⅠⅡ』『タヴィストック・セミナー』『ビオンの臨床セミナー』など邦訳の出ているものを読んでいきますが、受講生はできる限り原典も入手して参照しながら読み進めることが望ましいです。</p>		

文献講読Ⅲ 「こころの発達心理学」	北川恵先生／別府哲先生 御池	第2土曜日／ 16:30～18:30
<p>—北川先生からの内容紹介—</p> <p>文献講読Ⅲは12目を迎えます。初期はタビストックの発達文献リストに沿った英語論文を多読し、その後は、講師の専門であるアタッチメント研究と臨床についての文献を講読してきました。2015年度から新しいターム（3年）を迎え、アタッチメントの勢力的な長期縦断研究のテキストの講読を開始しました。テキストの研究は、米国ミネソタ州で1970年代に開始され、180人の子どもとその家族が、誕生3か月前から成人にいたるまで参加しました。包括的な測定を用いた前向きな（prospective）研究により、発達の過程と影響する要因、発達の連続性と変化など、臨床に有益な知見が報告されています。英語文献ですので、1回1章のペースで、じっくり取り組みたいと思います。ターム3年目ですが、今年度からの参加も可能です。参加者には、事前学習として、日本語の課題図書を読んでおいていただき、アタッチメントと発達研究の基礎知識を共有したうえで、ご参加いただきたいと思います。</p> <p>【課題図書（事前学習）】</p> <p>数井みゆき・遠藤利彦（2005）アタッチメント：生涯にわたる絆，ミネルヴァ書房</p> <p>【テキスト】</p> <p>Sroufe, L. A., Egeland, B., Carlson, E. A., & Collins, W. A. (2005). The development of the person; The Minnesota Study of Risk and Adaptation from Birth to Adulthood. New York: Guilford Press.</p> <p>—別府先生からの内容紹介—</p> <p>自閉症の障害とその支援を考える上でも、障害を持たない子どもの発達を学ぶことは重要となります。特に発達の中でも、乳幼児期を中心として、自己や情動、認知の発達とそれらの関連などに言及した文献を今回は検討することとします。あわせて、それが自閉症の理解と支援においてどのような意味を持っているのかに関する文献にも一部触れます。参加者の関心に応じて講読し、臨床実践の基礎となるような議論をしたいと考えています。</p>		

4-2: 応用セミナー

「応用セミナー」は、講師の先生方が独自に運営されるセミナーを本研修プログラムの一つとして組み入れているものです。経験豊富な講師の方々がそれぞれユニークな視点と専門性をもって開催しているセミナーです。より多角的に心理療法について学んでいくことができます。

4-2-1: グループスーパービジョン

少人数の Small Group スーパービジョンです。1年間継続して、同一のメンバーが、同じスーパーバイザーのもとで事例を検討します。各グループとも受講生にあった細やかな指導がなされるとともに、スーパーバイザーの臨床に対する考え方やケースに対する姿勢など、さまざまな面を学ぶことができます。「森ノ宮事例検討会」だけは毎回様々な先生を講師としてお招きし、多角的な議論ができるようになっております。尚、I・II・森ノ宮事例検討会については、「日本精神分析学会認定精神療法医・日本精神分析学会認定心理療法士」認定研修グループの認定審査を受け、「症例・事例検討会」として認定されています。

Small Group S.V. I	飛谷渉先生／なんば	第2・4火曜日／20:00～21:30
—講師からの内容紹介— 子ども、思春期、成人という幅広い年齢層のケースを対象としてグループ・ディスカッション形式のスーパービジョンを行います。精神分析的心理療法における治療構造の創造とその維持、転移逆転移をどう読みどう解釈するか、その二つをグループスーパービジョンの主眼とし、さらに心理療法のセットアップ、アセスメント、精神分析的態度の獲得などにも適宜ふれて行きます。その中で1セッションごとに何が起きているのかを感知できる力をつけることを目標とします。日本精神分析学会認定研修グループ（症例検討会機能）となっています。		

Small Group S.V. II	平井正三先生／御池	第2・4木曜日／18:20～19:50
—講師からの内容紹介— 子どもの事例(中学生まで)を検討していきます。自分自身の事例だけでなく、他のメンバーの事例に接する中で、様々な事例を見ていける力、そして事例についての自分なりの考えを表現できる力を培うことを目標にしていきたいと思えます。子どもの心理療法を始めたが、精神分析の技法と理論をもっと学んで、より深く事例を理解し、技量を高めていきたい人向けです。		

Small Group S.V. III	仙道由香先生／新大阪	第2・4火曜日／8:30～10:00
—講師からの内容紹介— 大学生程度から老年期まで幅広い年齢層の成人を対象とした個人心理療法を検討します。毎回ひとつのセッションのプロセスノートの小グループで丁寧にディスカッションし、セラピストとクライアントの間で展開される転移・逆転移やファンタジーを生き生きと体験することを目指します。さらに、より適切な関わり方の技法について理解を深めます。 ※前年度から引き続いて参加ご希望の方も今年度分として改めてお申込みをしてください。(最少2人～最大5人)		

森ノ宮事例検討会	津田真知子先生 他／森ノ宮	第1土曜日／18:40～20:40
<p>—講師からの内容紹介—</p> <p>精神分析入門セミナー（15時40分～18時10分）の後の時間帯（18時40分～20時40分）に行われます。参加者が順番に事例を提供し、それを助言者の先生を中心に参加者全員で検討します。助言者は、入門セミナーの講師、ゲスト講師の2名の先生です。2名の先生とクローズドの参加者で毎回率直なディスカッションがもたれる活発でオープンな雰囲気での検討会です。初めて事例を出される方にも適しています。参加者は、事例を提供できる方に限定します。また応募者多数の場合は、精神分析入門セミナーの受講者を優先します。事例検討会は、自分の経験していないケースについて考え、自分の考えを言語化する訓練の機会になり、臨床家に不可欠な研修です。今年度は、受講料を値下げし、参加しやすくなっていますのでどうぞ奮ってご参加ください。</p> <p>本年度より日本精神分析学会認定グループの事例検討会として認定されましたので、認定取得希望者にも適しています。</p>		

4-2-2：体験グループ

体験グループ	仙道由香先生／新大阪	毎週水曜日／20:00～21:00
<p>—講師からの内容紹介—</p> <p>ファシリテーターに守られたクローズドな小グループという安全な環境の中で起こる集団力動の中に身を置いてみましょう。あなたの心はそこでどう影響されどう反応するのでしょうか。そして集団はあなたにどう影響されどう反応するのでしょうか。この生きた経験を通じ、あなたの心の働き方、そしてあなたと人々の相互的交流について観察し理解を深めてゆくことを目指します。</p> <p>※最低1年間継続的に参加していただきます。</p> <p>※前年度から引き続いて参加ご希望の方も、今年度分として改めてお申込みをしてください。</p> <p>※申し込み時点で満席の場合はウエイティングリストに登録し、空きが出るまでお待ちいただけます。開催状況、空席状況は年間を通じ事務局にお問い合わせください。（最小5人～最大8人）</p>		

4-2-3：セミナー・ワークショップ・勉強会

それぞれのセミナーやワークショップが独自のテーマを設定し、少人数で1年間継続して学べるようになっていきます。事例の特徴に合わせて必要な知識を集中的に学べるセミナーや子どもに限らず心理療法の基本を学べるセミナーなどがあります。

子どもの心理療法ワークショップ	平井正三先生／御池	第2土曜日／19:00～21:30
<p>—講師からの内容紹介—</p> <p>本ワークショップは、特に発達障害と被虐待児の臨床を中心に、子どもの精神分析的な心理療法についての理論的・技法的理解を深めることを目的とします。前半は自閉症のより深い理解を目指して、メルツァーの『自閉症世界の探求』及びバロウズ編『自閉症スペクトラムの臨床』の数本の論文を読解していきます。後半は、被虐待児の心理療法の技法的問題を扱った論文を読んでいく予定です。また、精神分析だけでなく、発達研究などの文献も適宜読んでいきます。受講者は、発達障害の子どもや虐待を受けた子どもの心理療法事例を提示していただく必要があります。</p>		

精神分析臨床研究会	平井正三先生／御池	第 4 木曜日／14:00～16:30
<p>—講師からの内容紹介—</p> <p>この研究会は、文献を講読しながら、事例検討も並行して行い、精神分析臨床に関する理解を深める機会を受講者に提供します。取り組んでいく文献は、理論文献ではなく、事例に即し、かつセミナーなど対話の要素の入ったものです。今年度は、Meltzer, d & Harris, M の 'Adolescent' (karnac Books) の続きと新たに Post-Autism を読んでいきます。受講者は、クライン派の精神分析について一定の知識があることが望ましいですが、必須ではありません。</p>		

思春期青年期の精神分析的心理療法セミナー： タビストックのアドレッセント臨床を学ぶ	飛谷渉先生／ なんば	第 2 土曜日 18:30～21:00
<p>—講師からの内容紹介— 本年のテーマ：「性的虐待と思春期：虐待と被虐待の連鎖」</p> <p>思春期青年期（13 歳～22 歳）の臨床例をお持ちの臨床家、もしくは近い将来そのような年齢層の患者との面接をする予定の臨床家が対象です。文献講読とともにアセスメントやマネージメントも含めた事例検討を広い視野のもとで行います。スクール・カウンセリング、学生相談、児童思春期精神医療、児童養護施設など、治療の場やセッティングの相違によるアプローチの違いなども検討します。それらの事例がサイコセラピーに向いているかどうか、そうでないならどのような対応が治療的かといったことから、本格的な精神分析的心理療法の中でのアドレッセントにも焦点を当てることとなります。さらに英国タビストックの思春期青年期部門におけるアプローチを紹介し、日本の思春期臨床の中でそれらをいかに適用できるかなど検証します。本年度の年間テーマは「性的虐待と思春期」です。文献講読 1 時間 30 分と事例検討 1 時間 30 分によって構成されており、メンバーにはどちらかへのご発表をさせていただきます。</p> <p>使用文献：Boys Who Have Abused: Psychoanalytic Psychotherapy with Victim/Perpetrators of Sexual Abuse. John Woods (Jessica Kingsley Publishers)</p>		

心理療法のアセスメント	仙道由香先生／新大阪	第 4 土曜日／18:30～21:00
<p>—講師からの内容紹介—</p> <p>心理療法にさきだつアセスメントでは、その人にとって、今この時点において心理療法は役立つのか、役立つとするならばどのような心理療法が最適か、セラピストや治療構造の限界等も見極めつつ判断します。本セミナーでは、参考文献を読んで理論や技法を学ぶと共に、事例ディスカッションを通してアセスメントについての理解を深めることを目指します。</p> <p>※新規参加の方も前年から継続して参加の方もいずれ歓迎します。</p>		

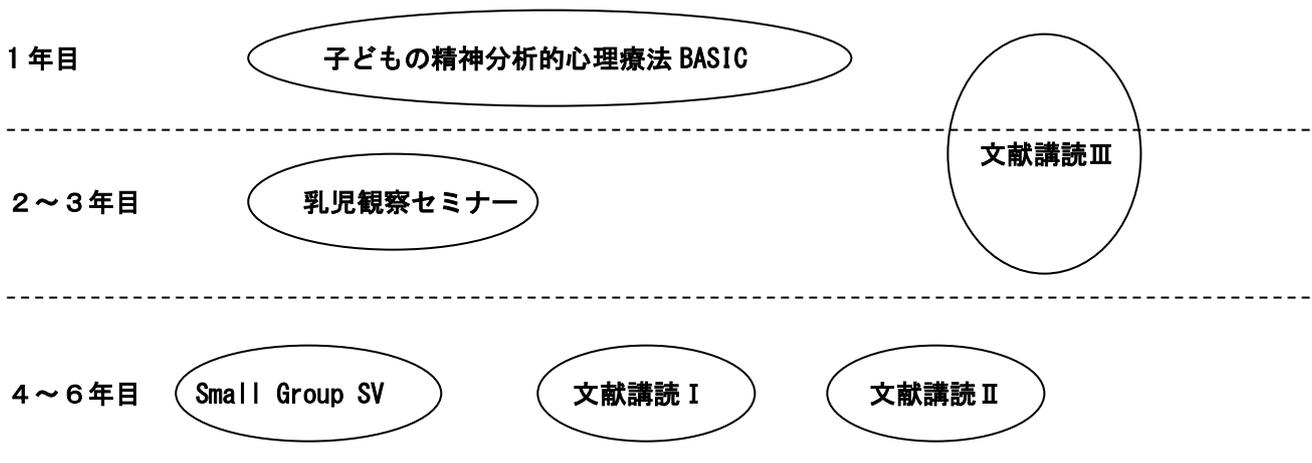
子どもの心理療法 One More Step	松本拓真先生／京橋	第 1 土曜日／18:30～21:00
<p>—講師からの内容紹介—</p> <p>このセミナーは、子どもの精神分析的心理療法の入門書を読んだり、講義を受講したりすることはあるが、まだ自分が実践する際にはためらう、自信がないという方を想定しています。</p> <p>参加者それぞれの方の臨床の場実際に活用できるようにするため、前半の 1 時間半で文献講読とディスカッションを行い、後半の 1 時間で参加者からの事例の検討を行います。今年度は「虐待を受けた子どもの心理療法」をテーマとします。虐待の問題は、不適切な養育や DV などにもまで広げて考えたときに、子どもの臨床の中核的な位置を占めているといっても過言ではありません。その心理療法は、「考えられない」「誰かから何かをもらうことが怖い」「学べない」が蔓延し、無力感に苛まれることもまれではありません。ポストンとスザー編著の「被虐待児の精神分析的な心理療法：タビストック・クリニックのアプローチ」（金剛出版）を中心に、虐待臨床に不可欠な論文（日本語）を厳選して読んでいく予定です。</p>		

京都精神分析研究会	平井正三先生／ 四条烏丸	第3土曜日／19:00～22:00
<p>—内容紹介— 文献講読と事例検討会を行いながら、専門会員が個々の研究について発表していきます。NPO 正会員はどなたでも、いつからでも参加することができます。現在、文献講読は、Rosenfeld の Impasse and Interpretation (邦訳：治療の行きづまりと解釈) を1章ずつ読んでいます。</p>		

★本 NPO としては、精神分析的心理療法の実践において、個人スーパービジョンおよび個人分析・個人セラピーを受けることは重要かつ欠かせないものと考えております。個人スーパービジョン、個人分析をご希望の方には、ご相談を受付けますので事務局 (info@sacp.jp) までご連絡ください。

5. モデルコース

精神分析的心理療法の基礎について、体系的に学んでいただくために本 NPO では以下のモデルコースを用意しております。受講をご検討される際の参考にしてください。



+それぞれの年で、興味のある勉強会に参加する。

これはあくまでモデルコースです。この通りの順番で受講しなければいけないというものではありません。また、当法人が認定する「子どもの精神分析的心理療法士」資格に必要な単位なども参考にしてください (当募集要項の P13～15)。

6. 特待生

本 NPO では乳児観察セミナーを、子どもの精神分析的心理療法を行うための最も基本的かつ重要なものと考えています。本 NPO の正会員で乳児観察セミナーを受講中であり、子どもの心理療法実施者として本 NPO のセラピー活動を支えていく意思がある方を特待生として理事会にて認定します。特待生は、研修プ

プログラム受講料の一部が半額に減免されます。

特待生の認定を希望される方は、申込用紙の「特待生の認定」の欄の「希望する」をチェックして、お申込みください。認定の可否につきましては、追って事務局より連絡させていただきます。

※乳児観察修了者／個人分析を受けている方は「資格候補生」になっていただけます（p15参照）。

7. 受講料

	コース名	受講料	納入方法
基幹セミナー	乳児観察セミナー	5,000 円/1 回	各月ごとに講師にお支払ください。
	子どもの精神分析的心理療法 BASIC	60,000 円/全 18 回	受講料は 5 月末までに納入ください。分納希望される方は半額を 5 月末まで、残りの半額を 10 月末までに指定の振込先へ納入ください。
	精神分析入門セミナー	30,000 円/全 10 回	受講料は 3 月末までに指定の振込先へ納入ください。
	ワーク・ディスカッションセミナー	50,000 円/全 10 回	受講料は 3 月末までに納入ください。分納希望される方は半額を 3 月末まで、残りの半額を 10 月末までに指定の振込先へ納入ください。
	文献講読 I	正会員 50,000 円/全 10 回 その他 60,000 円/全 10 回	受講料は 3 月末までに納入ください。分納希望される方は半額を 3 月末まで、残りの半額を 10 月末までに指定の振込先へ納入ください。 ※正会員割引は 2 月の理事会までに入会が承認された方に限ります※
	文献講読 II		
	文献講読 III		
応用セミナー	Small Group S.V. I	5,000 円/1 回 90 分	セミナー開講後、講師の指示に従ってください。
	Small Group S.V. II	6,000 円/1 回 90 分	
	Small Group S.V. III	6,000 円/1 回 90 分	
	森ノ宮事例検討会	25,000 円/全 10 回	
	体験グループ	5,000 円/1 回 60 分	
	子どもの心理療法ワークショップ	50,000 円/全 10 回	
	精神分析臨床研究会		
	思春期青年期の精神分析的 心理療法セミナー		
	心理療法のアセスメント		
	子どもの心理療法 One More Step	2,000 円/全 10 回	
	京都精神分析研究会	無料	NPO 正会員のみ参加できます。 参加ご希望の方は事務局までご連絡ください。

注：一度納入されました受講料は、返金いたしかねますのでご了承ください。

料金の分納制度はあくまで振込みの負担を軽減するための措置です。研修プログラムは 1 年を通して参加していただくことで得られる濃密な学びとメンバーシップを重視しておりますので、半年単位の参加はご遠慮いただいております。

8. 修了証の発行

「子どもの心理療法 One More Step」「京都精神分析研究会」を除く各セミナーについて、年度毎に修了証を発行いたします。修了証は、本 NPO がコース修了と考える基準を明確にし、受講生がその基準を満たしたことを証明するためのものです。本研修プログラムは受講生の自主性を尊重するものであり、必ずしも修了証を受けることを目指す必要はありませんが、精神分析的心理療法士・精神療法医資格取得のために単位を必要とされる方は、修了証を得る必要があります。また本研修プログラムは、NPO 法人子どもの心理療法支援会が認定する「子どもの心理療法士」資格の要件となっております。資格取得を目指される方は修了証を取得していただく必要があります。

各コースにおいて、修了証を受け取るためには、以下の要件を満たすことが必要となります。

乳児観察	2年間の乳児観察を終了すること
G.S.V.	出席率8割
その他セミナー	8割の出席および各講師が指定したテーマに沿ったエッセイの提出

9. 申し込み

対象：臨床心理士、医師、それに準じる専門家。もしくは心理臨床の実践について学んでいる大学院生。

申込方法：申込用紙に必要事項を記入の上、**2017年2月末日（一次募集）まで**に「子どもの心理療法支援会」事務局まで E-mail または Fax にてお申込みください。

参加の可否：参加希望者が定員を超えた場合は、前年度から引き続き受講される方に優先的に参加いただきます。次に新規に参加される正会員、賛助会員、一般の順にご参加いただきます。正会員、賛助会員の中で定員を超えた場合は、先着順にてご参加いただきますのでご了承ください。参加の可否につきましては、3月上旬に事務局よりご連絡いたします。ご参加いただける場合は、その連絡とともに受講料の振込みについてのご案内をお送りいたします。連絡方法は、E-mail, Fax, 郵送の3通りがあります。ご希望の連絡方法を申込用紙の「参加可否の連絡方法」の欄でご指定ください。

★注：最近、事務局メールから yahoo mail, gmail, hotmail などのフリーメールアドレスをお持ちの方にメールが届かないという事例が散見されます。申し込みの1週間程度ではお返事を差し上げるよう努力しておりますので、1週間以上返事がない場合などはメールの不具合の可能性がありますので、事務局までお問合せください。また、迷惑メールフォルダなどに自動的に振り分けられることもありますので、ご確認のほどよろしく願いいたします。

お問い合わせ：NPO 法人 子どもの心理療法支援会 事務局

〒604-8187 京都市中京区東洞院通御池下る笹屋町4 4 4 初音館3 0 2

Fax : 0 7 5 - 6 0 0 - 3 2 3 8 E-mail : info@sacp.jp URL : <http://sacp.jp/>

NPO 法人子どもの心理療法支援会認定 「子どもの精神分析的心理療法士」

1. 子どもの精神分析的心理療法士とは

「子どもの精神分析的心理療法士」資格は、NPO法人子どもの心理療法支援会(以下「本法人」)が、子どもの精神分析的な心理療法を実施するために必要と考える技能・知識および経験を有すると認定した者に与える資格である。子どもの精神分析的な心理療法士は、本法人が運営するセラピー事業における心理療法実施者として活動できる。また、子どもの精神分析的な心理療法の普及のために、積極的に活動することが求められる。

2. 資格取得要件

本資格を取得しようとする者は、本法人の正会員になった上で、以下の要件を満たし、必要書類を記入の上で、本法人事務局に申請を行い、その後資格審査委員による面接を受ける必要がある。その後、資格審査委員会の会議での承認を経て、資格が与えられる。

(1) 事例経験

開始時に18歳以下で1年以上継続した心理療法を2事例以上、別々のスーパーバイザーの指導の下で行うことを必須とする。そのうち1事例は開始時に小学生以下でなければならない。また治療頻度は週に1回以上であること。その際のスーパーバイザーのうち一人は本NPOが指定するスーパーバイザー(指定スーパーバイザー表参照)であること。もう一人については精神分析学会認定スーパーバイザー、もしくは資格審査委員会が適切と認めたスーパーバイザーであること。

(2) 個人分析／心理療法

個人分析／心理療法を受けることを必須とする。頻度は最低週1回、週に3回以上であることが望ましい。また最低3年以上は継続して同一の分析家／セラピストから受けること。

分析家については、原則として、本法人が推薦する分析家／セラピスト(別表参照)、もしくは資格審査委員会が適切と認めたセラピストである。

※個人分析の関連で下記の単位取得に困難が生じるときは、個人分析を優先とし、理論学習などの受講については個別に配慮するので事務局に申し出ること。

(3) 単位取得

本法人が運営する研修プログラムの各セミナーを修了し、表1に定める単位を取得すること。

3. 資格申請方法

資格取得を希望するものは、上記の要件を満たした上で、NPO法人子どもの心理療法支援会事務局に申請書を提出すること。例年、6月末が申請書類の提出期限になることが多い。申請書類はHP上からダウンロードするか、MLにて送付されたものを活用する。申請後、資格審査委員(数名)の面接を経て(7月～9月)、資格審査委員会にて正式に認定される。資格審査委員会は毎年10～11月に開催される予定であり、可否は11月頃に郵送にて通知される。

表 1. 資格取得に必要な単位数

種別	研修名	単位数	最低基準単位	
理論 学習	文献講読 I ※1	1 単位／年	3 単位	4 単位 以上
	文献講読 II	1 単位／年	1 単位以上	
	文献講読 III	1 単位／年		
	発達障害 WS 被虐待児 S 子どもの心理療法 WS 思春期 S ワークディスカッション S 心理療法のアセスメント 精神分析入門セミナー	1 単位／年		
体験	乳児観察※2	4 単位／年	8 単位	18 単位 以上
	体験グループ	4 単位／年		
事例	個人 SV	4 単位／年※3	8 単位以上	
	GSV※4	2 単位／年	2 単位以上	
	森ノ宮事例検討会	1 単位／年		
学会 発表 論文 ※5	学会発表	乳児観察: 2 単位		
		学会発表※6: 2 単位	2 単位以上	
	論文	乳児観察論文(査読あり): 4 単位	4 単位以上	
		子どもの事例論文(査読あり): 4 単位		
	(査読なし): 2 単位			

※1: 文献講読 I は、1 年目「フロイト」、2 年目「クライン」、3 年目「ビオン」を 1 タームとしている。このため、各テーマについて単位を取得しなければならない。

※2: 乳児観察はセミナー参加期間ではなく、自身の観察を行った期間とする。

※3: 個人スーパービジョンについては原則毎週行われるものとする。隔週の場合は 1 年で 2 単位とする。ただし、2 事例のうち最低 1 事例については毎週のスーパービジョンを受けていること。一人のスーパーバイザーで算出できる単位は 8 単位までとする。

※4: グループスーパービジョンについては原則隔週で行われるものとする。月 1 回の場合は 1 年で 1 単位とする。

※5: 査読ありの論文を少なくとも 1 本執筆することを必須とする。事例の発表及び論文の事例は、スーパービジョンを受けた子ども(18 歳以下)を対象とするものに限る。

※6: 学会発表は日本精神分析学会における研修症例発表、もしくはそれと同等と資格審査委員会が認定する学会での発表とする。

4. 資格申請料

資格取得にかかる審査料と資格証発行料として1万円を申請時に事務局に支払うこと。支払いは振込みで、「郵便局 00980-8-150282 加入者名:NPO 法人子どもの心理療法支援会セミナー」に振り込むこと。

5. 資格取得に関する補助

(1) 資格候補生制度

資格候補生制度は、当法人の事業(特に心理療法の支援事業)を担うべき人材が、必要とされる高い専門性を習得するための研修の受講することを支援することを目的とする。

・資格候補生になるための条件

1. 当法人の正会員(専門会員・ボランティア会員)であること
2. 乳児観察セミナーを修了していること、もしくは、自身の心理療法や精神分析を週 1 日以上頻度で 1 年以上受けていること
3. 当法人が認定する「子どもの精神分析的心理療法士」の資格を取得し、心理療法実施者として当法人の事業を支えていく意志があること

※必要性があると判断された時には、資格審査委員が面接を行う場合がある※

・資格候補生のメリット

1. 研修プログラムのうち下記のプログラムについて通常の受講料から半額を減免する。
子どもの精神分析的心理療法 BASIC、精神分析入門セミナー、文献講読 I、II、III
2. 審査に必要な 2 事例目のスーパービジョンを当法人の指定スーパーバイザーに受ける際には 1 年間に限り料金の割引を受けることができる。減免する額は 1 回 5000 円(8000 円の場合は 3000 円)であり、20 回まで受けることができる。ただし、各スーパーバイザーが割引のスーパービジョンを引き受けるのは 1 名までとする。

その他、詳細は HP 上にある資格候補生制度の内規を参照のこと。希望者は HP 上から申請書をダウンロードして、記入の上、事務局に提出し、理事会にて合否が審査される。

(2) プロGRESS・アドバイザー制度

資格取得を希望する者は、担当のプロGRESS・アドバイザー(資格取得者が担当する)と訓練や資格取得に関する悩みや疑問について相談することができる。年に 1 回は必ず面接を行うことになっている。

6. その他(その後の研修)

子どもの精神分析的心理療法士資格の取得は、一定程度の技能・知識・経験を有することを認めるものであり、資格取得後も継続して自己研鑽に努めることが勧められる。資格取得後に目指すべき方向として、以下のものが挙げられる。

- ① 子どもの精神分析的心理療法士の資格を取得したものは、引き続き自身の臨床に関する研鑽に努め、日本精神分析学会認定精神分析的心理療法士・精神療法医の資格を取得することが勧められる。
- ② さらに、子どもの精神分析的心理療法指定スーパーバイザー資格の取得を目指し、訓練を提供する側になることが強く勧められる。